

デイサービスセンターだより

利用者紹介

杉原 アサヨ 明治42年6月23日生

若い頃、上の子の手をつなぎ、下の子を背負い、町内はもろんのこと周桑方面までもよく歩いて行っていたそうです。そのことが、今日の健康を約束されているのでしよう。野良仕事、頑張ってください。

近藤 シヅ子 明治44年3月7日生

優しい子供さんたちに囲まれ、大変羨ましいと思います。デイでもおしゃべり友達が増えましたね。リハビリも一生懸命頑張っておられるシヅ子さんの明るい笑顔に会えるのをみんなが待っています。

近藤 忠雄 明治41年5月14日生

とても若々しく見えますが、実は明治生まれです。散髪するのが好きで、毎月その日が来るのを楽しみにしております。やさしい奥様と二人暮らしで、青春を謳歌しています。

古谷 繁雄 明治36年5月1日生

チャームポイントはやはりおひげでしょうか。歌や踊りが大好きで陽気な古谷さんですが、特に伊予万才を踊れば右に出る人はおりません。ここだけの話ですが(?)百才はもうすぐそこなんですよね。

渡部 ユキ 大正4年1月3日生

白髪がとても美しく、いつも身だしなみに気を付けておられ感心します。また、日舞のお稽古でよりいっそう女らしさを身につけておられます。女ならばいくつになってもこうありたいものです。

家族だよりー共に生きようー

「私とおばあさん」

「私が牛乳を飲もうと思ったら、いつも誰かが飲んでしまつとる!おばあさんが飲んだん?」

「いいえ、私は飲まあせん!」

少し変だなと思い始めたのは、こんな会話からでした。あれからもう十年経ちました。初めの頃は嫁姑の確執が頭をよぎって、中々やさしい言葉をかけることが出来ませんでした。でも痴呆が進むに従いその怨みもすうっと消えていきました。手をつなぐと歌を歌い、土遊びをしている様子は純真な子供の様です。でも一たび気嫌を損ねるとプライドが出て来るし理屈は通じない、周囲が我慢するしかありません。そういう時は大変です。

でも、もしおばあさんがいなかったらどうでしょう。確かに気持ちも体も楽ですが、「自分が年を取る」という事を真剣に考える事はなかったと思います。年をとるのは淋しくて辛い事です。昨日出来た事が今日は出来ない、社会からもだんだん必要とされなくなる。誰もが通る道ですが、「上手に年を取る」という事は、本当に難しい事を実感しました。

もう一つは子供達への影響です。世の中には働き盛りの人だけでなく、お年寄りや子供も、また病気の人や痴呆の人もいます。いろんな人がいるのが自然な社会です。その中で子供達は自然に違和感なくおばあさんと接しています。おばあさんの姿を見たら話かけ、手を引いて歩きます。興奮状態の時はさっと引きまします。私が教えられる事もあり、お金では得られない貴重な経験です。

こんな事を思うとおばあさんの介護は確かに大変ですが、私達の行く道をいろいろ勉強させてもらっています。腹の立つこともたくさんありますが、肩の力を抜いて、気長く接していこうと思います。

